

「閉会挨拶」

株式会社 MTI 取締役 川嶋 民夫

長い時間、熱心に耳を傾けて頂き誠にありがとうございました。少しだけお時間を頂き、本日の講演を纏めさせて頂ければと思います。

先ず、ご存じのことと思いますが弊社MTIはNYKの子会社でありまして、NYK技術本部の「研究開発部門」と位置付けられております。MTIの社内は、今述べました技術研究開発を行っている「技術戦略グループ」に加え、NYKグループ全体の教育をつかさどる「人材育成グループ」と、更に「業務グループ」から成り立っております。技術戦略グループには、造船所からお借りしている若手6名を含めた21名からなる「船舶技術ユニット」と、丸の内本社の15名に横浜ラボの5名と外部に出向している6名の26名からなる「物流技術ユニット」と、更に両ユニットをサポートする「開発サポートユニット」から成り立っております。船舶技術ユニットは海上輸送の安全・環境・経済性の差別化の研究開発を行い、物流技術ユニットは輸送品質の差別化・物流現場改善の研究開発を行うことで、国際物流への貢献を目指しております。

船舶技術ユニットの研究開発をもう少し詳しく見てみたいと思います。船舶技術ユニットの研究開発は、次世代船開発、スマートプラントオペレーション、スマートマニューバリング、スマートフリートオペレーションの4つの領域に分類できます。本日の講演では、次世代船開発の一例として井上から「日本郵船グループの空気潤滑法への取組み」を聞いて頂きました。スマートプラントオペレーションに関してはその一例として橋元から「ハイブリッド過給機への実船検証からの提言」を聞いて頂きました。スマートマニューバリングに関しては本日は時間が取れませんでした。来年は触れたいと考えております。スマートフリートオペレーションに関しては堀から「実運航における燃費改善のためのトリム最適化」について聞いて頂きました。以上の3つの講演が「船舶技術ユニット」の研究開発に関したものでした。

さて、もう一つの技術開発の柱である物流技術開発に関しましては、田村から「技術開発による国際物流への貢献」とのタイトルで物流技術研究開発の対象領域とロードマップを示させて頂きました。対象領域のひとつは「輸送品質の差別化」であり、もう一つは「物流現場改善」でした。また、一つ目の輸送品質の差別化の一例として、高橋から「リアルタイムカーゴケアシステムによる顧客満足度向上」に関して述べさせて頂きました。

弊社MTIでは、コア技術である計測・解析技術により、船舶技術開発による海上輸送の安全・環境・経済性の差別化と、物流技術開発による輸送品質の差別化・物流現場改善を実現することで、国際物流への貢献を目指しております。本日は拙いところも沢山あったと存じますが、以上の五つの講演を聞いて頂き、大変に感謝しております。

本日は遠路をお越し頂き、誠にありがとうございました。